

社高生のみんなへ

今日は27日(月)、穏やかな良い天気です。休校となって1週間が経ちました。いつもなら748人の活動による活気にあふれた校内のはずですが、シーンとして寂しいものです。やはり君たちがいなければ学校ではありません。早く以前のような学校に戻って欲しいと願うばかりです。

さて、報道されたように、今年のインターハイが中止になりました。何とも残念なことです。特に3年生にとっては、この状況からするとやむを得ないことと頭では理解しつつも、簡単には受け入れがたい話だと思います。全国高体連会長さんは、「この中止は、みなさんの夢を奪うものではなく、安全・安心や命を守るため」と話されました。苦渋の決断であったように思います。

ここで、1学期の始業式(1年生はまだいませんでした)で話したことをもう一度伝えたいと思います。2, 3年生の人、覚えていますか？

《1学期始業式 校長講和一部抜粋》

「今を受け入れ、今を越える」

これは土田和歌子さんという方の言葉です。高校時代の交通事故で脊髄損傷となり車いす生活となりました。そこからパラスポーツの世界に入った方です。

「今を受け入れ、今を越える」

とてもシンプルな言葉ですが、その時の現状を受け入れて、未来志向で前向きに乗り越えようとする力強い言葉です。

私たちは、先ほど話したように、先の見えない状況になっていますが、この現実を変えようもなく、受け入れなければなりません。そして、この現状を乗り越えなければなりません。

君たちの高校2年生、3年生という日々・時間は確実に過ぎていきます。どんな状況になっても、高校生としてやるべきことはやらなくてはなりません。前を向き、粛々と勉強・部活動等をやっていきましょう。それが社高生の姿だと思います。この1年頑張りましょう。

この時点では、休校ではなかったのですが、様々な教育活動が制限されると予測されましたので、このような話をしました。残念ながら、今は臨時休校となり、学校での勉強・部活動はできなくなり、また、インターハイも中止になり、さらなる制限を余儀なくされています。今大切なことは、感染症にうつらない、そして、人にうつさないこと。国民一人ひとりに求められていることです。でも、やっぱり時は止まってくれず、過ぎていきます。学校に登校できなくても、社高生としてやるべきことはやらなければなりません。どうか、今を受け入れ、今を越えるべく主体的な自宅生活に取り組んで欲しいと思います。与えられた課題のみならず、自ら求める学びを期待しています。そして、ストレッチ・筋トレ、声出し・音出し等自分に必要なことはやらなければなりません。また、空いた時間にはぜひ読書をし、ものの考え方や知識等をインプットしてください。ものは考えようで、こんなに時間がある時だからこそ、将来の進学や就職時における1人暮らしのための料理に挑戦などもいいのではないかと思います。

「今を受け入れ、今を越える」 みんなが今を越えられるよう、大社高校の教職員は全力でみなさんを支えていきます。